

当院で経験した cisA₂B₃型の一症例

◎深井 奈々¹⁾、屋代 薫¹⁾、小池 紗恵子¹⁾、伊藤 里歩¹⁾、緒形 あゆみ¹⁾、石原 恭美¹⁾、十良澤 勝雄¹⁾、佐藤 千秋¹⁾
昭和大学藤が丘病院¹⁾

【はじめに】 cisA₂B₃型は特殊な遺伝子型 cisAB/Oを示す血液型である。今回、ABO血液型検査においてオモテ・ウラ検査の不一致が発端となり、精査を行った。その後、日本赤十字社でフローサイトメトリーによる解析と遺伝子解析の結果 cisA₂B₃型と確定できた症例を経験したので報告する。

【症例】 他院でABO血液型が判定保留となり精査目的で当院を紹介受診した20歳代女性。妊娠34週であり、分娩時や将来輸血する可能性と患者本人の希望もありABO血液型精査を実施した。

【検査結果】 血液型検査はORTHO VISION Maxでカラム凝集法を実施した。オモテ検査抗A(4+)抗B(3+)、ウラ検査A₁血球(0)B血球(w+)の判定であった。試験管法では、オモテ検査抗A(4+)抗B(3+)、ウラ検査A₁血球(0)B血球(2+)O血球(0)の判定となった。37°C反応性(反応増強剤無添加の間接抗グロブリン試験)はA₁血球(0)B血球(w+)O血球(0)となった。さらに抗A₁レクチン(0)抗Hレクチン(4+)で、被凝集価は抗A512倍(対照512倍)抗B64倍(対照512倍)であり、A型およびB型糖

転移酵素活性は認めなかった。当院精査より cisA₂B₃型の可能性を示唆し、本人の同意を得た上で日本赤十字社に精査依頼を行った。その結果、フローサイトメトリーによる解析ではA抗原、B抗原は対照のAB型に比べ弱い反応を示した。そして遺伝子解析の結果より cisA₂B₃型の cisAB01/Oと判定された。

【まとめ】 当院精査より cisA₂B₃型の可能性が示唆された症例を経験した。今後輸血する可能性と患者本人の希望から、血液型の確定が求められた。患者の同意が得られ、日本赤十字社に精査を依頼し、フローサイトメトリーによる解析と遺伝子解析の結果 cisA₂B₃型と確定できた。輸血実施時は、赤血球製剤はO型、血漿/血小板製剤はAB型を選択するよう臨床側に提案することができた症例である。血液型精査目的の受診であったため、輸血等の処置は行われなかったが、このような症例では輸血用血液製剤の選択に十分注意する必要がある。

連絡先：045-974-6235